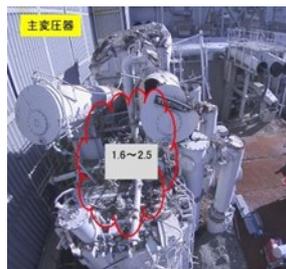
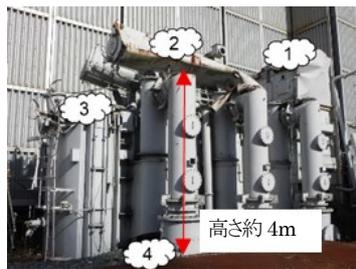


(3) 瓦礫撤去作業における遠隔重機の適用

場 所		分 類		被ばく低減対策事例			
原子炉建屋内	RB	1	時間			番号	
タービン建屋内	TB	2	距離				
R Zone	R	3	遮へい			番号	
Y Zone	Y	4	線源の除去				
G Zone	G	5	遠隔、ロボット化			番号	
その他 ()	Z	6	汚染拡大防止				
		7	その他				
作業場所	3号機 主変圧器・所内変圧器エリア						
概 略	変圧器上部に堆積する瓦礫撤去を遠隔重機で実施						
評 価 (定性・定量)	効 果		対策前	対策後			
		被ばく線量(mSv)	234.8	88.6 (※)			
		人工数(人日)	340	232 (※)			

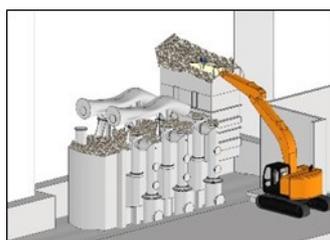
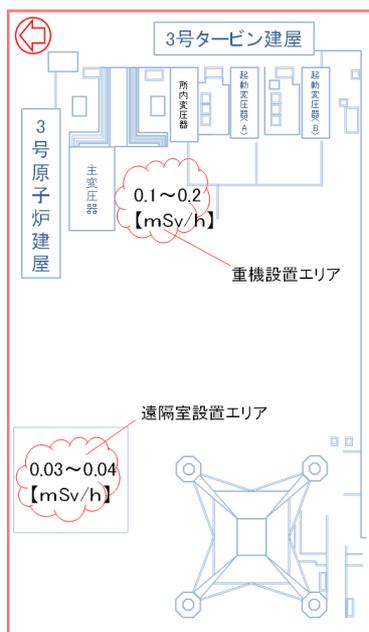
事例詳細



主変圧器 設置状況

【変圧器周囲 線量当量率 (mSv/h)】

1. 表面 2.0~6.5 (at 1m 1.6~2.5)
2. 表面 2.0~6.5 (at 1m 1.6~2.5)
3. 表面 2.0~6.5 (at 1m 1.6~2.5)
4. 表面 0.3~1.5 (at 1m 0.1~0.3)



遠隔重機による瓦礫撤去作業イメージ

【対策後 線量当量率 (mSv/h)】

遠隔操作室設置エリア
0.03~0.04mSv/h

重機設置エリア
0.1~0.2mSv/h

対策前：人力での瓦礫撤去を計画

対策後：遠隔重機を用いて変圧器上部の瓦礫撤去を実施

(※) 現在も作業は継続中であり、記載している線量と人工数は、計画の数値になります。
計画では、遠隔操作室で重機操作を全て実施する計画であったが、操作室画面から確認できない箇所もあり、重機近傍（重機設置エリア）にて操作する場面もあります。

線量当量率は、β線を含む(β+γ)場においても、γ線による場合と同程度